

(5) 東海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

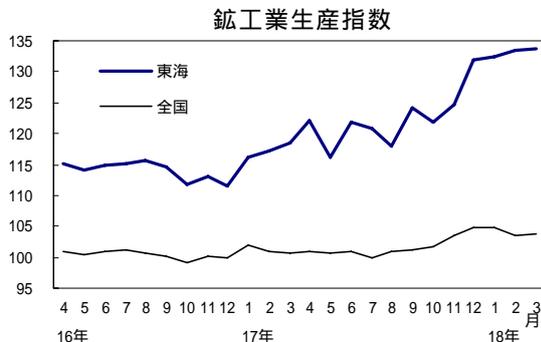
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 2 月）	今回（平成 18 年 5 月）	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に増加している。

輸送機械は、完成車の国内向けは伸び悩みがみられたものの、海外向けが北米向けを中心に好調だったことなどから、増加している。なお、自動車部品も輸出が好調だったことから、増加している。一般機械は、金属工作機械が国内外の一般機械向け、自動車関連向けを中心に、高水準で推移していることなどから、増加している。電気機械は、電動機が自動車関連向けを中心に好調に推移し、制御機器も自動車関連、半導体関連向けを中心に高水準で推移したことから、おおむね横ばいとなっている。窯業・土石は、ファインセラミックスが自動車向けを中心に増加したものの、陶磁器が飲食器を中心に低調に推移したことなどから、おおむね横ばいとなっている。化学は、自動車関連向けが好調なことなどから、おおむね横ばいで推移している。電子部品・デバイス、半導体素子・集積回路が携帯音楽機器向けを中心に好調に推移し、液晶素子も好調だったことなどから、大幅に増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年3月の東海速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

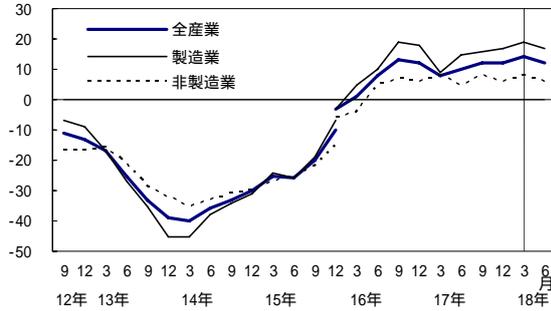
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	33.9	2.1	8.0	7.3	11.0
一般機械	11.3	5.3	3.8	2.6	1.4
電気機械	7.3	1.6	0.7	4.3	13.5
窯業・土石	6.1	0.8	0.8	0.1	0.1
化学	5.4	1.2	0.1	1.9	2.3
鉱工業	100.0	4.3	5.5	4.5	1.3

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

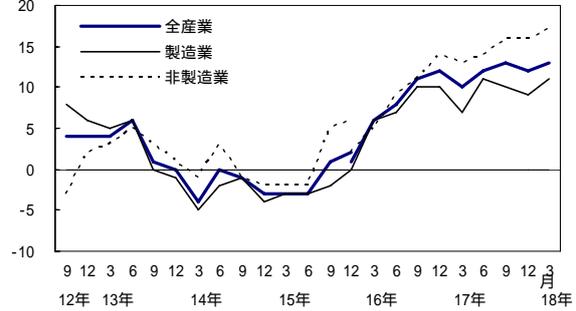
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



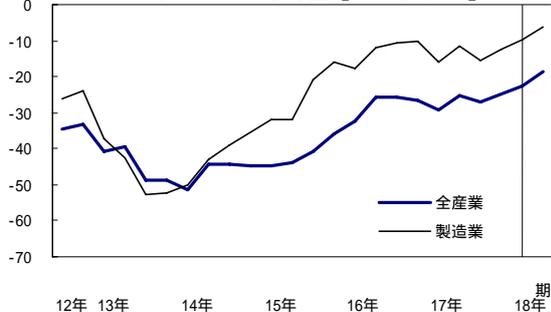
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「家電関係は減少傾向にあるが、重電、設備関連の製品が安定して動いている。以前に比べると微増にとどまっているものの、全体的には良くなっている(電気機械器具製造業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

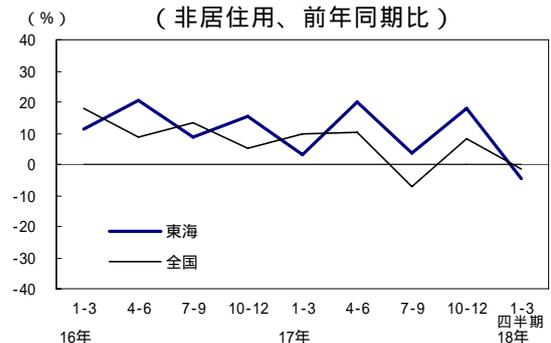
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	17年度実績見込み	18年度計画
全産業	17.3 [16.5]	8.1
製造業	25.7 [25.1]	4.1
非製造業	6.9 [6.0]	13.8

(備考)[]は前回(12月)調査結果。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

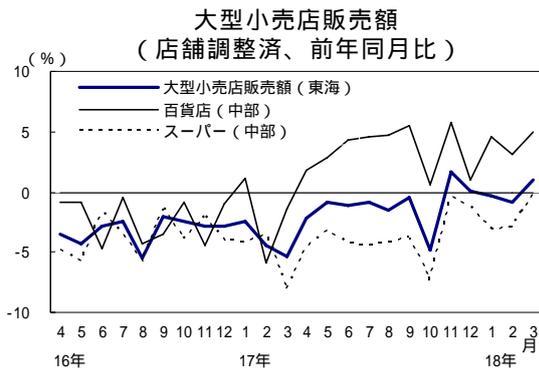
(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りやクリアランスセールが好調だったことに加え、寒波による冷え込みで、重衣料が好調だったことなどから、前年を上回った。2月は、全般的に天候に恵まれ、春物衣料が活発に動いたことなどから、前年を上回った。3月は、改装効果などにより、美術品や高級ブランドなど高額商品の販売が目立ってきたことなどから、前年を上回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の4月の売上高は、前年同月比で1.8%減となっている。スーパーは、衣料品が3月に、3か月ぶりに前年を上回ったものの、主力の飲食料品が前年を下回ったことから、全体でも期間を通じて前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

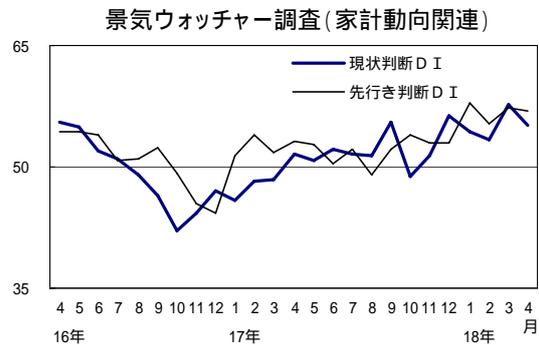
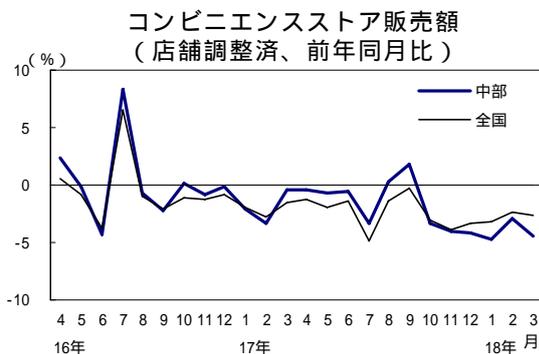
「引き続き、外商顧客への訪問販売の感触、反応は良くなってきている。紳士服の催事でも、男性客の来店が増え、売上は前年を上回っている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月
大型小売店	1.3	1.0	1.0	0.1
百貨店	2.9	4.9	2.3	4.3
スーパー	4.1	4.2	3.0	2.2
コンビニ	0.5	0.5	3.9	4.0
景気ウォッチャー	51.4	52.8	52.2	55.1

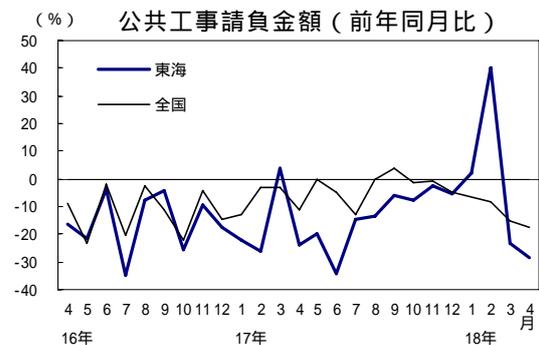
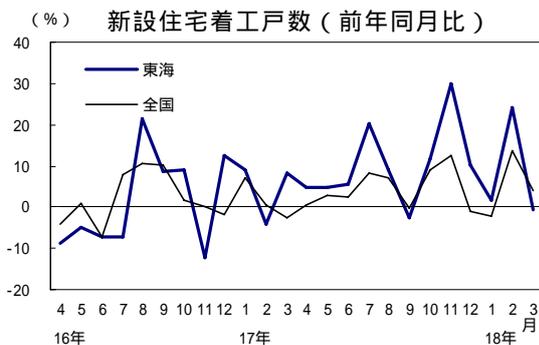
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

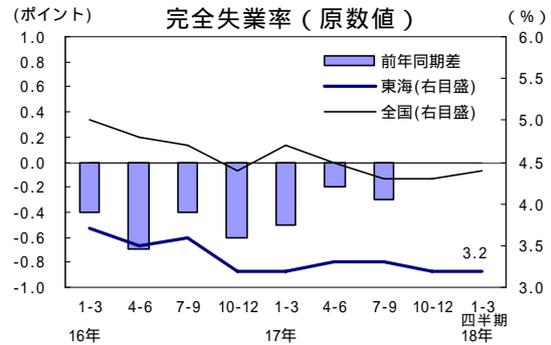
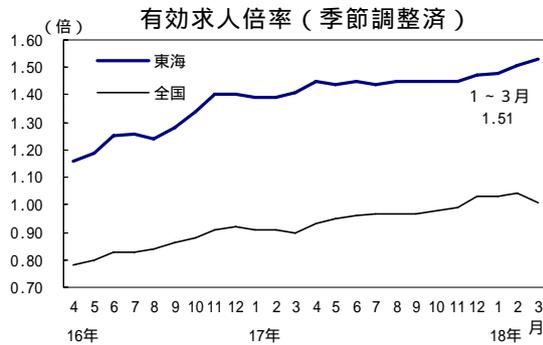


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

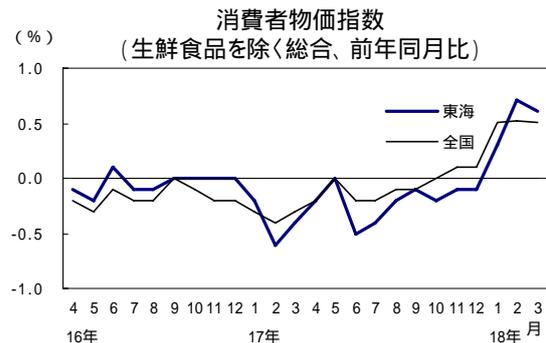
「転職求人は全体的にはやや落ち着いてきている。しかし、製造業が中心の地域では、まだまだ極めて活発な動きがある（新聞社〔求人広告〕）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月	18年4月
倒産件数	344	301	342	309	117
（前年比）	21.6	3.8	5.2	7.2	17.0
負債総額	1,656	1,308	1,470	1,001	241
（前年比）	88.4	22.4	53.2	59.6	15.8



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・桜の花見などの季節商品が堅調に売れている。また日帰り旅行や昼食と入浴の旅行商品も需要が多く、売上は伸びている（旅行代理店）

<先行き>

・環境重視素材の提案などがよく受け入れられており、遠方の取引もやや活発になってきている。今後もこの傾向は続く（紙加工品〔段ボール〕製造業）

景気ウォッチャー調査（合計）

